

医療的ケア支援委員会

部会長 丸山敏枝 副部会長 金井佑樹 佐藤あずさ

運営委員会担当者 荒井裕子 ケアマネ連絡会担当者 小池晶代 瀧澤真紀

長野市障害福祉課担当者 今井さとみ

1 年間テーマ

事例を通して在宅支援について考える

2 部会等の開催状況

日時		会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容
月	日				
6	19	にじいろキッズ らいふ	27	今年度の活動予定・看護師座談会	参加者自己紹介、看護師座談会、情報交換
8	9	にじいろキッズ らいふ	22	事例を通して在宅支援 について考える青年期①	Aさんの基本情報から想定されるプラン を考える
10	16	にじいろキッズ らいふ	19	事例を通して在宅支援 について考える青年期②	Aさんの卒後のプラン、さらに30歳時 のプランを元に学びを深める
12	13	にじいろキッズ らいふ	14	事例を通して在宅支援について 考える 出生～18歳①	お家へ帰ろう！医ケア児の退院と在宅 生活
2	19	にじいろキッズ らいふ	20	事例を通して在宅支援について 考える 出生～18歳②	学校へ行こう！医ケア児の一般的な就学 の流れと放課後の過ごし方

このほか執行部会を年11回開催

3 機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

令和6年度 事業報告

4 課題について

(1) 主な検討課題

取り組んだこと

- ・令和 3 年度から実施されている看護師研修(施設間看護師研修)を今年も計画した。
- ・委員会内で看護師座談会を開催した。
- ・事例を通して在宅支援について考える

(2)検討の目的と結果(現状)

- ・看護師研修について今年度は委員会を通しての研修希望はなかったが、新しいスタッフが就職したときに他施設を見せていただくのは勉強になるので引き続き素地は残しておきたい。
- ・6 月の委員会内で看護師座談会を開催。事業所の看護師が孤独にならないように、また横の繋がりもできるようにとの目的で開催。訪問看護ステーション、生活介護、児童発達支援、放デイ等の看護師が参加して日頃の思いを聞いたり情報交換などができた。
- ・出生～18 歳、青年期各2回にわたり、事例を通して在宅支援や資源について学ぶことを目的に開催した。事業所看護師、訪問看護師、保健師、支援員、教育関係、相談支援専門員等多職種の方に参加いただき、お互いの業務や支援内容について知ることが出来た。

(3)引き続き検討が必要とされる課題

- ・看護師研修、座談会は引き続き「話せる場」として残していきたい。
- ・医ケア委員会で作成した医ケア児者の基本情報シート、退院時のフローチャートは引き続き活用していただきたい。
- ・情報ツウーに掲載した医ケア資源マップは予算の都合上、割愛されたが何かの形で残せないか(長野市 HP に掲載、QR コードで読み取れるようにする、など)

(4)部会の運営体制について

令和 6 年度は引き続き執行部の人数を限って運営した。

5 総括(1 年間を振り返って)

- ・事例検討は準備が大変であったがいろいろな事業所の日中の支援や地域の現状を知り、自分の知識を増やすことができた。
- ・福祉で働く看護師を孤独にしないためにどうやって支えることができるか？を考えたい。
- ・在宅を支える母が困らないように情報共有シートや退院時のフローチャートを作ってみ

令和6年度 事業報告

んなが繋がれるようになってきた。

- ・訪問看護ステーションが増え、福祉が在宅を支える流れができてきたと感じる。在宅支援に興味を持っている方が増えてきたのが嬉しい。